



Red Hat Process Automation Manager 7.8

Red Hat Process Automation Manager 7.8 リ
リースノート

Red Hat Process Automation Manager 7.8 Red Hat Process Automation Manager 7.8 リリースノート

Red Hat Customer Content Services
brms-docs@redhat.com

法律上の通知

Copyright © 2020 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本書は、Red Hat Process Automation Manager 7.8 のリリースノートです。

目次

前書き	4
第1章 製品の概要	5
第2章 新機能	6
2.1. BUSINESS CENTRAL	6
2.1.1. Business Central UI の更新	6
2.1.2. Excel へのエクスポート機能の強化	6
2.1.3. Decision Model and Notation (DMN) デザイナーにおける FEEL 式のコード補完入力の向上	6
2.1.4. BPMN モデラーでのメタデータ属性のサポート	6
2.1.5. プロセスでの変数タグ付けのサポート	6
2.1.6. ケース管理のビジネスキー	6
2.1.7. プロセスインスタンス移行の完全サポート	6
2.1.8. 親プロセスからの再利用可能なサブプロセスの表示	7
2.1.9. タスク拡張のための予測サービス	7
2.1.10. セキュリティー管理アクションのサポートおよび REST API を使用したスペースコンポーネントの更新サ ポート	7
2.1.11. テストシナリオ	8
2.2. デシジョンエンジン	8
2.2.1. 実行可能モデルでの lambda 外部化の最適化機能	8
2.3. プロセスエンジン	9
2.3.1. 特定のノードからのビジネスプロセスの開始	9
2.3.2. 新しい通知リスナープロパティ	9
2.3.3. カスタムクエリーの OR 演算子	9
2.4. RED HAT BUSINESS OPTIMIZER	9
2.4.1. Red Hat Business Optimizer Constraint Streams API	9
2.4.2. KIE Server タスクの自動割り当て	9
2.4.3. 運搬経路計画スターターアプリケーション	9
2.5. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	9
2.5.1. Red Hat OpenShift Container Platform 4.5 でのデプロイメントサポート	9
2.5.2. Red Hat OpenShift Container Platform での KIE Server のカスタムイメージ作成	10
2.5.3. Red Hat OpenShift Container Platform 4.x での Gitフックの SSH 認証	10
2.5.4. Red Hat OpenShift Container Platform でのイメージのメタリングラベル	10
2.5.5. 永続ボリュームへの ReadWriteMany アクセスなしで Red Hat OpenShift Container Platform 4.x に実稼 働環境をデプロイするサポート	10
2.5.6. Red Hat OpenShift Container Platform 4.x のプロセスインスタンス移行サービス	10
第3章 サポートおよび互換性	11
3.1. FUSE の統合	11
3.2. RED HAT JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 7.3 のサポート	11
3.3. RED HAT JBOSS WEB SERVER 5.3	11
3.4. MYSQL 8.0 のサポート	11
3.5. MICROSOFT SQL SERVER 2017 のサポート	11
3.6. ORACLE DATABASE 19C のサポート	11
3.7. POSTGRESQL 11 および ENTERPRISEDB POSTGRES ADVANCED SERVER 11 のサポート	11
第4章 非推奨コンポーネント	12
4.1. レガシーのテストシナリオツール	12
4.2. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM 3.X のサポート	12
4.3. レガシーのプロセスデザイナー	12
4.4. ENTANDO APPBUILDER のサポート	12
第5章 テクノロジーレビュー	13

5.1. 制限付きネットワークでの RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM 4.X のデプロイメント	13
5.2. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM 4.X への RED HAT DECISION MANAGER 高可用性のオーサリング環境のデプロイ	13
5.3. DASHBUILDER RUNTIME	13
5.4. ケースモデラー	13
5.5. PREDICTION SERVICE API	14
5.6. 強化された検索機能	14
5.7. OPENSIFT OPERATOR インストーラーウィザード	14
第6章 RED HAT PROCESS AUTOMATION MANAGER 7.8.0 で既知の問題	15
6.1. BUSINESS CENTRAL	15
6.2. プロセスデザイナー	18
6.3. インストーラー	19
6.4. DMN デザイナー	19
6.5. RED HAT BUSINESS OPTIMIZER	20
6.6. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	20
第7章 RED HAT PROCESS AUTOMATION MANAGER 7.8.0 で修正された問題	22
7.1. BUSINESS CENTRAL	22
7.2. プロセスエンジン	22
7.3. プロセスデザイナー	22
7.4. デシジョンエンジン	22
7.5. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	22
7.6. DMN デザイナー	22
第8章 RED HAT PROCESS AUTOMATION MANAGER 7.8.1 で既知の問題	24
8.1. BUSINESS CENTRAL	24
8.2. プロセスデザイナー	26
8.3. インストーラー	26
8.4. フォームモデラー	27
8.5. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	28
第9章 RED HAT PROCESS AUTOMATION MANAGER 7.8.1 で修正された問題	29
9.1. BUSINESS CENTRAL	29
9.2. プロセスデザイナー	29
9.3. プロセスエンジン	29
9.4. デシジョンエンジン	30
9.5. インストーラー	30
9.6. オフライン MAVEN リポジトリ	30
9.7. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	30
付録A バージョン情報	31

前書き

本書では、Red Hat Process Automation Manager 7.8 の新機能、テクノロジープレビュー機能、既知の問題、および修正された問題について説明します。

第1章 製品の概要

Red Hat Process Automation Manager は、ビジネスプロセス管理 (BPM)、ケース管理、ビジネスルール管理、リソースプランニングを組み合わせたオープンソースのビジネス自動化プラットフォームで、ビジネスユーザーおよび IT ユーザーによるビジネスプロセス、ケース、ビジネスルールの作成、管理、検証、デプロイメントを実現します。

Red Hat Process Automation Manager は、すべてのリソースが保存される集中リポジトリを使用します。これにより、ビジネス全体で一貫性や透明性を維持し、監査を行えます。ビジネスユーザーは、IT 担当者のサポートを受けることなくビジネスロジックおよびビジネスプロセスを編集できます。

Red Hat Process Automation Manager 7.8 では安定性が増し、問題がいくつか修正され、新機能が加わっています。

Red Hat Process Automation Manager は Red Hat OpenShift Container Platform で完全にサポートされており、各種プラットフォームにインストールできます。



注記

Red Hat Process Automation Manager は、Java 8 以降が必要になります。

Red Hat Process Automation Manager のサポートポリシーについての詳細は、「[Release maintenance plan for Red Hat Decision Manager 7.x and Red Hat Process Automation Manager 7.x](#)」を参照してください。

第2章 新機能

本セクションでは、Red Hat Process Automation Manager 7.8 の新機能について説明します。

2.1. BUSINESS CENTRAL

2.1.1. Business Central UI の更新

以下のリストは、Business Central UI の更新についてまとめています。

- ガイド付きデシジョンテーブルで、ルール名をカスタマイズして **Rule Name** 列を表示する機能
- ガイド付きデシジョンテーブルで、新しい行のデフォルト値を指定する機能
- スプレッドシートワークブックで複数のワークシートのデシジョンテーブルを処理する機能

詳細は、『[ガイド付きデシジョンテーブルを使用したデシジョンサービスの設計](#)』および『[スプレッドシートのデシジョンテーブルを使用したデシジョンサービスの設計](#)』を参照してください。

2.1.2. Excel へのエクスポート機能の強化

Excel にガイド付きデシジョンテーブルをエクスポートした場合における式、複数の BRL 列、ルール順のヒットポリシーのサポートが追加されました。詳細は、『[ガイド付きデシジョンテーブルを使用したデシジョンサービスの設計](#)』を参照してください。

2.1.3. Decision Model and Notation (DMN) デザイナーにおける FEEL 式のコード補完入力への向上

ボックスリテラル式エディターに FEEL 式を入力すると、提案としてノード名が表示され、必要に応じて式を適用し、補完入力できるようになりました。

2.1.4. BPMN モデラーでのメタデータ属性のサポート

メタデータ属性 プロパティーを使用して、ビジネスプロセスの汎用属性を管理できるようになりました。詳細は、『[Process designer Business Process Model and Notation \(BPMN2\) リファレンスガイド](#)』を参照してください。

2.1.5. プロセスでの変数タグ付けのサポート

Red Hat Process Automation Manager プロセスデザイナーは、**required**、**readonly**、**restricted** および **customTags** タグなどビジネスプロセスの変数タグ付けをサポートするようになりました。詳細は、『[Business Central でのビジネスプロセスの作成](#)』を参照してください。

2.1.6. ケース管理のビジネスキー

Red Hat Process Automation Manager 7.8 にはケース ID 生成をさらにカスタマイズできるようにサポートが追加されました。詳細は、『[ケース管理でのケースの設計及び構築](#)』を参照してください。

2.1.7. プロセスインスタンス移行の完全サポート

個別の KIE Server の実行中のプロセスインスタンスに移行プランを適用できます。詳細は、『[Business Central でのビジネスプロセスの管理および監視](#)』を参照してください。

2.1.8. 親プロセスからの再利用可能なサブプロセスの表示

Red Hat Process Automation Manager 7.8 では、親プロセスから再利用可能なサブプロセスを表示するサポートが追加されました。再利用可能なサブプロセスは、親プロセス内に折りたたまれた状態で表示されます。再利用可能なサブプロセスをダブルクリックして、親プロセスのダイアグラムからサブプロセスのダイアグラムを表示できます。詳細は、『[Business Central でのビジネスプロセスの管理および監視](#)』を参照してください。

2.1.9. タスク拡張のための予測サービス

タスク拡張の予測サービスは、Open Data Hub 人工知能 (AI) と機械学習 (ML) サービスに統合されます。不正検出に利用できる概念実証 (POC) があります。

2.1.10. セキュリティー管理アクションのサポートおよび REST API を使用したスペースコンポーネントの更新サポート

REST API を使用して **セキュリティー管理** アクションを実行して、スペースコンポーネントを更新できるようになりました。

- スペースの **description**、**owner** および **defaultGroupId** を更新します。

■ [PUT] /spaces

- Business Central のすべてのグループを返します。

■ [GET] /groups

- Business Central でグループを作成します。

■ [POST] /groups

- Business Central から指定のグループを削除します。

■ [DELETE] /groups/{groupName}

- Business Central のすべてのロールを返します。

■ [GET] /roles

- Business Central のすべてのユーザを返します。

■ [GET] /users

- 指定のユーザーに割り当てられている全グループを返します。

■ [GET] /users/{userName}/groups

- 指定のユーザーに割り当てられている全ロールを返します。

■ [GET] /users/{userName}/roles

- ロールとグループを指定して、指定のユーザーを作成します。

■ [POST] /users

- 指定のユーザーのパスワードを変更します。

■ [Post] /users/{userName}/changePassword

- Business Central から指定のユーザーを削除します。

■ [DELETE] /users/{userName}

- 指定のユーザーに割り当てられている既存のグループを、新規グループで上書きします。

■ [POST] /users/{userName}/groups

- 指定のユーザーに割り当てられている既存のロールを、新規ロールで上書きします。

■ [POST] /users/{userName}/roles

- 指定のグループに付与されている全パーミッションを返します。

■ [GET] /groups/{groupName}/permissions

- 指定のロールに付与されている全パーミッションを返します。

■ [GET] /roles/{roleName}/permissions

- 指定のユーザーに付与されている全パーミッションを返します。

■ [GET] /users/{userName}/permissions

- 指定のグループのパーミッションを更新します。

■ [Post] /groups/{groupName}/permissions

- 指定のロールのパーミッションを更新します。

■ [Post] /roles/{roleName}/permissions

詳細は、『[KIE API を使用した Red Hat Process Automation Manager の操作](#)』を参照してください。

2.1.11. テストシナリオ

Business Central のテストシナリオデザイナーは、ルールベースのテストシナリオで列挙データ型をサポートするようになりました。

2.2. デシジョンエンジン

2.2.1. 実行可能モデルでの lambda 外部化の最適化機能

実行可能モデルの最適化機能が新しくなり、ランタイム時のメモリー消費率が改善されます。この機能は、Lambda を生成して、実行可能モデルで使用方法を書き直します。lambda 外部化はデフォルトで有効になっています。lambda の外部化を無効にするには、以下のキーを使用します。

```
-Ddrools.externaliseCanonicalModelLambda=false
```

詳細は、『[Red Hat Process Automation Manager でのデシジョンエンジン](#)』を参照してください。

2.3. プロセスエンジン

2.3.1. 特定のノードからのビジネスプロセスの開始

ビジネスプロセスの終了後に、特定のノードからビジネスプロセスを開始できるようになりました。

2.3.2. 新しい通知リスナープロパティ

Red Hat Process Automation Manager 7.8 には新たに jBPM プロパティが 2 つ追加されました。これらの **org.kie.jpbm.notification_listeners.include** と **org.kie.jpbm.notification_listeners.exclude** のプロパティは、通知リスナーの有効化および無効化に使用します。

2.3.3. カスタムクエリーの OR 演算子

Red Hat Process Automation Manager 7.8 には、クエリーフィルターを定義する OR 演算子が含まれています。

2.4. RED HAT BUSINESS OPTIMIZER

2.4.1. Red Hat Business Optimizer Constraint Streams API

Constraint Streams API が完全にサポートされるようになりました。

2.4.2. KIE Server タスクの自動割り当て

KIE Server の最適化およびビジネスプロセスの管理機能が統合され、継続的なスケジュール最適化プランに基づいて、プロセスに含まれる人間のタスクを自動的にユーザーに割り当てることができるようになりました。

2.4.3. 運搬経路計画スターターアプリケーション

運搬経路計画スターターアプリケーションには、ユーザーインターフェースの向上、サーバーエラーの報告、新しい実行スクリプトが追加されました。

2.5. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

2.5.1. Red Hat OpenShift Container Platform 4.5 でのデプロイメントサポート

Red Hat OpenShift Container Platform 4.5 に Red Hat Process Automation Manager をデプロイできるようになりました。

2.5.2. Red Hat OpenShift Container Platform での KIE Server のカスタムイメージ作成

追加の JAR または RPM パッケージを使用して KIE Server イメージを作成して使用できるようになりました。カスタムイメージの作成に関する詳細は、『[Operator を使用した Red Hat OpenShift Container Platform への Red Hat Decision Manager のデプロイ](#)』の「[KIE Server のカスタムイメージの作成](#)」を参照してください。

2.5.3. Red Hat OpenShift Container Platform 4.x での Git フックの SSH 認証

Red Hat OpenShift Container Platform 4.x で Business Central の Git フックを設定する時に、カスタムの Git リポジトリにアクセスするための SSH 認証を設定できるようになりました。デプロイメント用の Git フックの準備に関する詳細は、『[Operator を使用した Red Hat OpenShift Container Platform への Red Hat Decision Manager のデプロイ](#)』の「[Git フックの準備](#)」を参照してください。

2.5.4. Red Hat OpenShift Container Platform でのイメージのメータリングラベル

Red Hat OpenShift Container Platform の Red Hat Process Automation Manager イメージに、OpenShift メータリングの使用を可能にするラベルが追加されました。メータリングの使用の詳細については、Red Hat OpenShift Container Platform ドキュメントの「[メータリング](#)」を参照してください。

2.5.5. 永続ボリュームへの ReadWriteMany アクセスなしで Red Hat OpenShift Container Platform 4.x に実稼働環境をデプロイするサポート

永続ボリュームへの ReadWriteMany アクセスが必要ない Business Central 監視の簡素化バージョンで Red Hat OpenShift Container Platform 4.x に Red Hat Process Automation Manager の実稼働環境をデプロイできるようになりました。Red Hat OpenShift Container Platform 4.x への Red Hat Process Automation Manager のデプロイに関する詳細は、『[Operator を使用した Red Hat OpenShift Container Platform への Red Hat Process Automation Manager 環境のデプロイメント](#)』の「[Operator を使用した Red Hat Process Automation Manager 環境のデプロイ](#)」を参照してください。

2.5.6. Red Hat OpenShift Container Platform 4.x のプロセスインスタンス移行サービス

Red Hat OpenShift Container Platform 4.x に、プロセスインスタンス移行 (PIM) サービスをデプロイできるようになりました。PIM サービスを使用して、異なる 2 つのプロセス定義間の移行を定義できます (これを移行プランと呼ぶ)。その後、この移行プランを、指定の KIE Server で実行中のプロセスインスタンスに、この移行プランを適用できます。

Red Hat Process Automation Manager の Red Hat OpenShift Container Platform 4.x へのデプロイに関する詳細は、『[Operator を使用した Red Hat OpenShift Container Platform への Red Hat Process Automation Manager 環境のデプロイ](#)』を参照してください。



注記

現在、プロセスインスタンス移行 (PIM) サービスでは、Red Hat OpenShift Container Platform のデータベースサポートに限りがあります。外部データベースのサポートは今後のリリースで追加される予定です。

第3章 サポートおよび互換性

本セクションでは、Red Hat Process Automation Manager 7.8 でサポート対象バージョンに関する更新内容を説明します。

3.1. FUSE の統合

Red Hat Fuse 7.6 は Red Hat JBoss EAP 7.2 でサポートされていますが、Red Hat Process Automation Manager は Red Hat JBoss EAP 7.3 でサポートされています。デプロイメント環境の安定性を確保するには、サポートされている Red Hat JBoss EAP バージョンに基づいて、Fuse と Red Hat Process Automation Manager を別の Red Hat JBoss EAP にインストールしてください。

3.2. RED HAT JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 7.3 のサポート

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.3 に Red Hat Process Automation Manager をインストールできるようになりました。Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.3 への Red Hat Process Automation Manager のインストールに関する詳細は、『[Red Hat JBoss EAP 7.3 への Red Hat Process Automation Manager のインストールおよび設定](#)』を参照してください。

3.3. RED HAT JBOSS WEB SERVER 5.3

Red Hat JBoss Web Server 5.3 に Red Hat Process Automation Manager をインストールできるようになりました。Red Hat JBoss Web Server 5.3 への Red Hat Process Automation Manager のインストールに関する詳細は、『[Red Hat JBoss Web Server への Red Hat Process Automation Manager のインストールおよび設定](#)』を参照してください。

3.4. MYSQL 8.0 のサポート

MySQL 8.0 データソースで Red Hat Process Automation Manager をデプロイできるようになりました。詳細は、『[Red Hat JBoss EAP 7.3 での Red Hat Process Automation Manager のインストールおよび設定](#)』の「[KIE Server の JDBC データソースの設定](#)」を参照してください。

3.5. MICROSOFT SQL SERVER 2017 のサポート

Red Hat Process Automation Manager デプロイメントでは、KIE Server の外部データベースサーバーとして Microsoft SQL Server 2017 をサポートするようになりました。

3.6. ORACLE DATABASE 19C のサポート

Red Hat Process Automation Manager デプロイメントでは、KIE Server の外部データベースサーバーとして Oracle Database 19c をサポートするようになりました。

3.7. POSTGRESQL 11 および ENTERPRISEDB POSTGRES ADVANCED SERVER 11 のサポート

Red Hat Process Automation Manager デプロイメントでは、KIE Server の外部データベースサーバーとして PostgreSQL 11 および EnterpriseDB Postgres Advanced Server 11 をサポートするようになりました。

第4章 非推奨コンポーネント

本セクションのコンポーネントは非推奨になります。

4.1. レガシーのテストシナリオツール

レガシーのテストシナリオツールは、Red Hat Process Automation Manager 7.3.0 で非推奨になりました。このツールは、今後の Red Hat Process Automation Manager リリースで削除予定です。代わりに、新しいテストシナリオデザイナーを使用してください。

4.2. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM 3.X のサポート

Red Hat Process Automation Manager バージョン 7.5 以降では、Red Hat OpenShift Container Platform 3.x 向けのイメージとテンプレートが非推奨になりました。非推奨のイメージとテンプレートには新機能は追加されませんが、Red Hat OpenShift Container Platform バージョン 3.x のサポートが終了するまでこれらのイメージとテンプレートは使用できます。Red Hat OpenShift Container Platform バージョン 3.x の完全なサポートライフサイクルフェーズに関する詳細は、「[Red Hat OpenShift Container Platform のライフサイクルポリシー \(最新バージョン以外\)](#)」を参照してください。

Operator を使用した Red Hat OpenShift Container Platform 4.x への Red Hat Process Automation Manager 環境のデプロイメントを検討してください。

4.3. レガシーのプロセスデザイナー

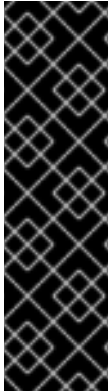
Business Central のレガシーのプロセスデザイナーは、Red Hat Process Automation Manager 7.6.0 で非推奨になりました。そのため、レガシーのプロセスデザイナーには新しい機能拡張や機能は追加されません。新しいプロセスデザイナーを使用予定の場合には、お使いのプロセスを新しいデザイナーに移行し始め、新しいプロセスデザイナーですべての新規プロセスを作成してください。新規デザイナーへのプロジェクト移行に関する詳細は、「[Business Central でのプロジェクトの管理](#)」を参照してください。

4.4. ENTANDO APPBUILDER のサポート

2020 年 8 月 31 日以降、Red Hat Process Automation Manager 7.8 には Entando AppBuilder が同梱されなくなりました。この日付以降、Red Hat では Entando AppBuilder のサポートがなくなります。機能の資料やドキュメントは、7.9 リリースでは提供されません。

第5章 テクノロジープレビュー

本セクションでは、Red Hat Process Automation Manager 7.8 のテクノロジープレビュー機能を説明します。Business Central には、デフォルトで無効になっている実験的機能管理ページが含まれています。このページを有効にするには、**appformer.experimental.features** プロパティの値を **true** に設定します。



重要

これらの機能はテクノロジープレビュー機能です。テクノロジープレビュー機能は Red Hat の実稼働環境でのサービスレベルアグリーメント (SLA) ではサポートされていないため、機能的に不十分である可能性があり、Red Hat では実稼働環境での使用を推奨していません。これらの機能は、近々発表予定の製品機能をリリースに先駆けて提供するので、お客様は機能性をテストし、開発プロセス中にフィードバックを寄せることができます。

Red Hat のテクノロジープレビュー機能についての詳細は、[テクノロジープレビュー機能のサポート範囲](#) を参照してください。

5.1. 制限付きネットワークでの RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM 4.X のデプロイメント

Operator Lifecycle Management を使用して、公開インターネットに接続されていない制約付きのネットワークで Red Hat OpenShift Container Platform 4.x に Red Hat Process Automation Manager をデプロイできます。

制限のあるネットワークでのデプロイメントに関する詳細は、「[Operator を使用した Red Hat OpenShift Container Platform への Red Hat Process Automation Manager 環境のデプロイ](#)」を参照してください。

5.2. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM 4.X への RED HAT DECISION MANAGER 高可用性のオーサリング環境のデプロイ

Operator を使用して Red Hat OpenShift Container Platform 4.x に高可用性の Red Hat Process Automation Manager オーサリング環境にデプロイできます。

5.3. DASHBUILDER RUNTIME

Dashbuilder ランタイムは新しいアドオンスタンドアロン Web アプリケーションで、**WAR** として配信され、Red Hat JBoss EAP でダッシュボードを実行します。dashbuilder ランタイムにアクセスできる場合には、Business Central で作成したダッシュボードを利用できます。以下の一覧では、dashbuilder ランタイムの概要をまとめています。

- データセットとページを使用してダッシュボードを作成すると、カスタムエクスポートを使用して Business Central からこれらのダッシュボードをエクスポートできます。
- dashbuilder ランタイムの Business Central からエクスポートしたダッシュボードのインポート、アクセス、実行が可能です。
- Dashbuilder ランタイムは KIE Server REST API にアクセスし、インポートした KIE Server データセットからクエリーを実行します。

5.4. ケースモデラー

Business Central のケースモデラーに、新しいプロセスデザイナーが追加されました。このモデラーでは、ケースをステージのシーケンスとしてモデル化するオプションが追加され、ハイレベルでのケースモデルの定義が簡素化されました。ケースモデルは、ヒューマンタスク、サブプロセス、サブクラスの 3 種類のタスクをサポートします。



注記

Red Hat Process Automation Manager 7.8 のケースモデラーはテクノロジープレビュー機能で、デフォルトでは Business Central で無効になっています。Business Central でケースモデラープレビューを有効にするには、ウィンドウの右上隅で **Settings** → **Roles** とクリックし、左側のパネルからロールを選択して、**Editors** → **(New) Case Modeler** → **Read** とクリックしてから **Save** をクリックして変更を保存します。

5.5. PREDICTION SERVICE API

Prediction Service API を使用して、ヒューマンタスクを支援する予測サービスを提供できます。予測サービスは AI を使用できます。たとえば、予測モデルマークアップ言語 (PMML: Predictive Model Markup Language) モデルまたは統計的機械知能と学習エンジン (SMILE: Statistical Machine Intelligence and Learning Engine) を使用してサービスを実装できます。

5.6. 強化された検索機能

Red Hat Process Automation Manager 7.8 では、タスク、プロセスインスタンス、ケースの柔軟な検索条件など、検索機能が強化されています。詳細は、『[ケース管理の設計およびビルド](#)』を参照してください。

5.7. OPENSIFT OPERATOR インストーラーウィザード

Red Hat Process Automation Manager 向けの OpenShift Operator には、インストーラーウィザードが提供されます。このウィザードを使用して、Operator が含まれる Red Hat OpenShift Container Platform に Red Hat Process Automation Manager 環境をデプロイできます。

第6章 RED HAT PROCESS AUTOMATION MANAGER 7.8.0 で既知の問題

本セクションでは、Red Hat Process Automation Manager 7.8 の既知の問題を紹介します。

6.1. BUSINESS CENTRAL

dashbuilder ランタイムで KIE Server 設定が欠落しているというエラーメッセージを改善する必要がある [RHPAM-3058]

問題: dashbuilder ランタイムのユーザーインターフェースでは現在、KIE Server 設定がないというエラーメッセージが誤って表示されます。

問題の再現手順:

1. Business Central を起動します。
2. dashbuilder ランタイムで KIE Server データセットのインポートを試みます。

想定される結果: dashbuilder ランタイムで、KIE Server システムプロパティがない、または間違っているというエラーが表示されます。

実際の結果: dashbuilder ランタイムで、KIE Server システムプロパティがない、または間違っているというエラーが表示されません。

回避策: なし

dashbuilder ランタイムディストリビューションに dodeploy ファイルがない [RHPAM-3031]

問題: dashbuilder ランタイムアプリケーションは、デプロイメントに必要なファイルすべてが含まれる Zip フォルダで配信されます。この zip フォルダには **dashbuilder-runtime.war** ファイルが含まれますが、そのフォルダに **dashbuilder-runtime.war.dodeploy** ファイルがありません。

回避策: **dashbuilder-runtime.war.dodeploy** ファイルを **dashbuilder-runtime.war** フォルダのコピーとして追加し、Zip フォルダを更新します。または、ディストリビューションは War ファイルでなければならないので、デプロイメントフォルダに直接コピーしてください。

dashbuilder 関連のデータをエクスポートすると、段階的なエクスポートで内部のデータソースが表示される [RHPAM-3021]

問題: dashbuilder 関連のデータをエクスポートすると、段階的なエクスポートで、ユーザー選択の内部データソースが表示されます。表示される内容は、公開データセットのみでなければなりません。

回避策: なし

ガイド付きのデシジョンテーブルで、Date のデータ型が含まれる列の検証機能が正しく動作しない [RHDM-1399]

問題: actions 列に特定のテンプレートキーの組み合わせが含まれている場合に、ガイド付きのデシジョンテーブルの検証機能を使用してテーブルを開くとエラーが表示されます。これらのテンプレートキーには、**Date** のデータ型が関連付けられています。

回避策: なし

ガイド付きのデシジョンテーブルのセルを選択できない [RHDM-1398]

問題: マウスを使用してガイド付きのデシジョンテーブルでデータセルを選択できません。

問題の再現手順:

1. Business Central で **Menu → Design → Projects** の順に移動し、**Mortgages** をクリックします。
2. **Pricing loans** ガイド付きのデシジョンテーブルを開きます。
3. ガイド付きデシジョンテーブルのデータセルをクリックします。

期待される結果: マウスを使用して、ガイド付きデシジョンテーブルのデータセルを選択できます。

実際の結果: マウスを使用してガイド付きデシジョンテーブルのデータセルを選択できません。

回避策: マウスを使用してヘッダーセルを選択し、キーボードの矢印キーを使用してデータセルに移動してください。

グリッドエディターで「元に戻す」や「やり直し」のキーボードのショートカットを使用できない [RHDM-1397]

問題: グリッドエディターでは、キーボードのショートカットキーを使用して、元に戻す (Ctrl+Z) またはやり直し (Ctrl+Shift+Z) の操作を実行できません。

問題の再現手順:

1. 新しい DMN ダイアグラムを作成します。
2. デシジョンノードを 2 つ追加します。
3. (Ctrl+Z) を押します。
デシジョンノードが 1 つ削除されます。
4. 残りのノードのグリッドエディターに移動します。
5. コンテキスト入力を何度か追加します。
6. (Ctrl+Z) を押します。
同じコンテキストが存在します。

期待される結果: グリッドエディターでキーボードの「元に戻す」や「やり直し」のキーボードショートカットキーを使用できます。

実際の結果: グリッドエディターでは、「元に戻す」や「やり直し」のキーボードショートカットキーを使用できません。

回避策: ツールバーの **Undo** ボタンは正しく機能します。

ガイド付きのデシジョンテーブルのルール名を、スプレッドシートのデシジョンテーブルのルール名に変換できない [RHDM-1396]

問題: ガイド付きのデシジョンテーブルのルール名からスプレッドシートのデシジョンテーブル (XLS) のルール名に変換できません。

問題の再現手順:

1. Business Central で **Menu → Design → Projects** の順に移動し、**Mortgages** をクリックします。
2. **Pricing loans** ガイド付きのデシジョンテーブルを開きます。

3. **Columns** タブでルール名の列を表示します。
4. **Model** タブで、カスタムのルール名を設定します。
5. ガイド付きデシジョンテーブルを保存します。
6. ツールバーのボタンを使用して、ガイド付きデシジョンテーブルを **XLS** ファイルに変換します。
7. 生成された **XLS** ファイルを開き、**Source** タブをクリックして、ルール名を確認します。

期待される結果: カスタムのルール名がガイド付きのデシジョンテーブルからスプレッドシートのデシジョンテーブル (XLS) に正しく変換されます。

実際の結果: カスタムのルール名がガイド付きのデシジョンテーブルからスプレッドシートのデシジョンテーブル (XLS) に正しく変換されません。

回避策: なし

テストする DMN モデルに PMML モデルが含まれる場合に DMN ベースのテストシナリオのパフォーマンスが低下する [RHDM-1415]

問題: DMN モデルのテストシナリオに PMML モデルを含めて作成すると、テストシナリオの検証と作成に時間がかかり、パフォーマンスが低下します。

問題の再現手順:

1. Business Central でプロジェクトをインポートします。
2. PMML モデルが含まれる DMN モデルを追加して、DMN ベースのテストシナリオを作成します。
3. **OK** をクリックします。
テストの実行速度が遅くなり、テストシナリオの検証に長時間かかります。

回避策: なし

アセットが Business Central のクラスター環境向けに正しくインデックス化されない [RHPAM-3089]

問題: Red Hat Data Grid、AMQ Broker と Business Central をクラスター環境にインストールすると、インデックス化関連のエラーや警告が表示されます。

問題の再現手順:

1. Red Hat Data Grid と AMQ Broker をインストールします。
2. Red Hat Data Grid および AMQ Broker を設定します。
3. クラスターでの Business Central を設定します。
4. Business Central を起動します。
5. **Menu → Design → Projects** を選択します。
6. **MySpace** スペースを開きます。
7. 新規プロジェクトを追加します。

8. **Add Asset** をクリックします。
Assets ウィンドウが開きます。
9. プロジェクトにアセットを追加して保存します。
10. プロジェクトウィンドウに戻ります。
新しく追加されたアセットの表示がなくなっています。
11. Red Hat Data Grid と Business Central のログを確認してください。
インデックス化に関連するエラーメッセージが表示されます。

回避策: なし

6.2. プロセスデザイナー

メインパレットからテキストアノテーションを作成すると、システムエラーメッセージが表示される [RHPAM-3052]

問題: メインパレットからテキストアノテーションを作成すると、システムエラーメッセージが表示されます。

問題の再現手順:

1. プロセスを作成します。
2. パレットを展開せずに、メインパレットからテキストアノテーションをドラッグアンドドロップします。

想定される結果: テキストアノテーションがシステムエラーなしに作成されます。

実際の結果: テキストアノテーションは作成されません。

回避策: パレットを展開してからのみ、テキストアノテーションを作成します。

Morph を使用してイベントゲートウェイに変更すると、接続ノードを削除して、プロセスを保存できない [RHPAM-3036]

問題: Morph を使用してイベントゲートウェイに変更すると、接続ノードを削除してプロセスを保存できません。また、シーケンスフローも削除できないので、エラーメッセージが表示されます。

問題の再現手順:

1. パラレルゲートウェイでプロセスを作成します。
2. タイマーとテキストアノテーション以外のノードを追加します。
3. Morph を使用してそのゲートウェイをイベントゲートウェイに変更します。
4. 接続ノード、シーケンスフローまたはゲートウェイ自体の削除を試みます。
5. プロセスを保存します。

想定される結果: 接続ノード、シーケンスフローを削除してプロセスを保存できます。また、プロセスが実行可能でない場合には警告メッセージが表示されます。

実際の結果: 接続ノード、シーケンスを削除して、プロセスを保存できません。

回避策: morph ツールボックスメニューを使用して、以前のゲートウェイタイプに変更します。たとえば、並行ゲートウェイにイベントゲートウェイを変更してみてください。

6.3. インストーラー

Red Hat Process Automation Manager インストーラーに Red Hat JBoss Web Server 5.2 への参照が含まれる [RHPAM-3077]

問題: Red Hat Process Automation Manager インストーラーの実行時に、インストールパスの手順で Red Hat JBoss Web Server 5.3 ではなく Red Hat JBoss Web Server 5.2 が参照されてしまいます。

回避策: なし

6.4. DMN デザイナー

DMN モデルに PMML 4.4 モデルを追加して、このモデルを保存または検証すると、DMN でエラーが発生する [RHDM-1400]

問題: DMN モデルに PMML 4.4 モデルを追加できず、DMN モデルでエラーが発生します。

問題の再現手順:

1. Business Central で新しい空のプロジェクトを作成します。
2. 空の DMN モデルを作成します。
3. プロジェクトに PMML アセットをバージョン 4.4 でインポートします。
4. DMN モデルを開きます。
5. **Included Models** タブを選択します。
6. **Include Model** をクリックして PMML 4.4 モデルを選択します。
7. **Include** をクリックします。

期待される結果: PMML 4.4 モデルを DMN モデルに追加できます。

実際の結果: DML モデルに PMML 4.4 モデルを追加できません。

回避策: なし

追加した DMN モデルからビジネスナレッジモデル (BKM: Business Knowledge Model) 関数を呼び出そうとすると、検証に失敗する [RHDM-1395]

問題: エイリアス名に . 文字が含まれるので、別の DMN モデルからインポートして、BKM 関数を呼び出すことができません。BKM 関数を呼び出そうとすると、検証に失敗します。

問題の再現手順:

1. 空の **Salary.dmn** DMN モデルを作成します。
2. もう1つ空の **WorkingHours.dmn** DMN モデルを作成します。
3. **WorkingHours.dmn** DMN モデルを **Salary.dmn** DMN モデルにインポートします。

4. **working.hours.model** など、. 文字を含めて、**WorkingHours.dmn** モデルのエイリアスを設定します。
5. モデルを検証します。
エラーメッセージが表示されます。

回避策: なし

6.5. RED HAT BUSINESS OPTIMIZER

Constraint Streams API では `groupBy()` メソッドを使用した増分スコア計算のパフォーマンスが低下する [RHDM-1385]

問題: Constraint Streams API で **`groupBy()`** メソッドを使用すると、ハイレベルの増分スコア計算のパフォーマンスが低下します。

回避策: DRL スコア計算を使用してください。

6.6. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

PostgreSQL エンタープライズインスタンスを使用して、PostgreSQL のカスタムデータベースイメージを作成できない [RHPAM-3005]

問題: PostgreSQL のカスタムデータベースを作成して、PostgreSQL エンタープライズインスタンスでイメージをプッシュすると、KIE Server が起動に失敗します。

問題の再現手順:

1. カスタムデータベースを作成し、PostgreSQL のイメージビルドを作成します。

```
make build postgresql
```

2. PostgreSQL エンタープライズインスタンスを使用してカスタムデータベースイメージをプッシュします。

```
db.primary_label=postgresplus116
db.port=5432
server_label_primary=postgresplus116
hibernate.dialect=org.hibernate.dialect.PostgresPlusDialect
hibernate.connection.url=jdbc\:edb\://edb-as11.mwqe.upshift.rdu2.redhat.com\:5432/dballo06
hibernate.connection.schema=public
datasource.class.xa=com.edb.xa.PGXADDataSource
```

3. S2I を使用して KIE Server をデプロイします。

想定される結果: PostgreSQL エンタープライズインスタンスを使用して PostgreSQL のカスタムデータベースイメージを作成できます。

実際の結果: PostgreSQL エンタープライズインスタンスを使用して PostgreSQL のカスタムデータベースイメージを作成できません。

回避策: なし

Git フックシークレットに `known_host` がない場合に Business Central Pod が起動に失敗する [RHPAM-3056]

問題: Git フックシークレットに **known_host** がない場合に Business Central Pod が起動に失敗して **Container Creating** のステータスで停止します。

問題の再現手順:

1. 以下の post-commit スクリプトを作成します。

```
cat post-commit
#!/usr/bin/sh
echo "running post-commit git hook"
git clone git@github.com:Sgitario/kjar-examples.git
```

2. この post-commit ファイルを Openshift にアップロードします。

```
oc create configmap githook-post-commit --from-file=post-commit=post-commit
```

3. Git フックシークレットを作成します。

```
oc create secret generic githook-ssh-key-secret --from-file=id_rsa=/mypath/.ssh/id_rsa
```

期待される結果: Git フックシークレットの設定が欠けている場合でも Business Central Pod で障害が発生しません。

実際の結果: Business Central Pod が起動に失敗して、**Container Creating** のステータスで停止します。

回避策: 以下の **known_host** ファイルを指定して、Git フックシークレットを再度作成します。

```
oc create secret generic githook-ssh-key-secret --from-file=id_rsa=test_manual/.ssh/id_rsa --from-file=known_hosts=test_manual/.ssh/known_hosts
```

第7章 RED HAT PROCESS AUTOMATION MANAGER 7.8.0 で修正された問題

Red Hat Process Automation Manager 7.8.0 の安定性が増し、本セクションに挙げる問題が修正されました。

7.1. BUSINESS CENTRAL

- Dashbuilder データ転送機能が Windows で機能しない [RHPAM-2751]
- Business Central で http を使用して clone プロジェクトを再有効化できない [RHPAM-2721]
- ガイド付きデシジョンテーブルを変更しようとする、列が競合して予期せぬエラーが発生する [RHPAM-2673]

7.2. プロセスエンジン

- " をリテラル式に使用するとタイマーの式が正しく解釈されない [RHPAM-2845]

7.3. プロセスデザイナー

- Business Central でタイマー式のコンポーネントを使用しようすると、エラーメッセージが表示される [RHPAM-2695]
- ケースファイルとグローバル変数を削除できない [RHPAM-2643]
- プロセスデザイナーで不正な **calledElement** 属性を設定すると、プロセスが壊れ、エラーメッセージが表示される [RHPAM-2432]

7.4. デシジョンエンジン

- DMN モデルでは coegen 機能を使用して DMNContext と DMNResult 向けに厳密に型指定されたコードを生成できる [RHDM-1323]

7.5. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

- Operator を使用して Red Hat OpenShift Container Platform にイミュータブルな KIE Server 環境をデプロイできない [RHPAM-2942]
- データベースのカスタム拡張イメージを作成できない [RHPAM-2948]
- AWS EBS ボリュームプラグインで **ReadWriteMany (RWX)** 永続ボリュームアクセスモードのサポートがないため、AWS Elastic Block Storage (EBS) を備えた Amazon Web Services (AWS) で実稼働環境をデプロイできない [RHPAM-2480]

7.6. DMN デザイナー

- デシジョンテーブルで単純なデシジョンノードを作成すると、不必要な **typerRef** エラーが生成される [RHDM-1291]
- ビジネスナレッジモデル (BKM) と **ContextEntry** の値が含まれるデシジョンテーブルを使用すると、DMN モデルの検証に失敗してエラーメッセージが表示される [RHDM-1281]

- ボックスリスト式の型はサポートされない [RHDM-1271]
- ビジネスナレッジモデル (BKM) は説明テキストエリアの最大長をサポートしない [RHDM-1261]
- トップレベルのデシジョンテーブルの出力ヘッダーを選択すると、**Properties** パネルが更新されない [RHDM-1247]
- DMN デシジョンノードは、長い質問を入力するために使用するテキストエリアの最大長をサポートしない [RHDM-1228]
- レイアウト情報が含まれていない DMN ダイアグラムを表示すると、ノードがすべて同じ場所に表示される [RHDM-1150]

第8章 RED HAT PROCESS AUTOMATION MANAGER 7.8.1 で既知の問題

本セクションでは、Red Hat Process Automation Manager 7.8.1 の既知の問題を紹介します。

8.1. BUSINESS CENTRAL

デプロイメントユニットを追加するとシステムエラーが発生する [RHPAM-3111]

問題: デプロイメントユニットを追加して、誤った GAV 値を手動で入力すると、予期せぬシステムエラーが発生します。

問題の再現手順:

1. Business Central で **Menu → Deploy → Execution Servers**に移動します。
2. **Deployment Units** の下で **Add Deployment Unit** をクリックします。
3. 存在しない GAV 値を手作業で入力します。
4. **Start Deployment Unit?** チェックボックスを選択してサービスを起動します。
5. **Finish** をクリックします。
予期しないシステムエラーが発生します。

回避策: なし

デプロイメントユニットを追加して、手作業で GAV 値を入力し、警告ウィンドウを確認すると、待ち時間を表すスピナーが表示されない [RHPAM-3114]

問題: ポップアップを確定後に、待ち時間を表すスピナーが表示されず、デプロイメントの進行中に GAV 値を変更できます。

問題の再現手順:

1. Business Central で **Menu → Deploy → Execution Servers**に移動します。
2. **Deployment Units** の下で **Add Deployment Unit** をクリックします。
3. 存在しない GAV 値を手作業で入力します。
4. **Start Deployment Unit?** チェックボックスを選択してサービスを起動します。
5. **Finish** をクリックします。
6. **Save Container Spec** ポップアップで **OK** をクリックします。
警告ウィンドウが消え、デプロイメントの進行中に GAV 値を変更できます。

想定される結果: 警告ウィンドウを確認した後に、待ち時間を示すスピナーが表示されます。

実際の結果: 警告ウィンドウを確認した後、待ち時間を示すスピナーは表示されません。

回避策: なし

DMN データ型に制約を適用すると、シナリオシミュレーションでエラーが発生する [RHDM-1435]

問題: DMN データ型に制約を適用すると、**Wrong column mapping**エラーのポップアップがシナリオシミュレーションで表示されます。

問題の再現手順:

1. Business Central で **Menu → Design → Projects** に移動します。
2. **Try samples** をクリックします。
3. **Traffic_Violation** プロジェクトを開きます。
4. **Traffic Violation** DMN ファイルを開き、**Data Types** タブを選択します。
5. **tViolation** データ型を変更して **tViolation** をクリックします。
6. **tViolation** データ型に制約を追加して、編集アイコンをクリックし、**Add Constraints** をクリックします。
7. **Select constraint type** プルダウンメニューから **Enumeration** を選択して、フィールドに **50、90** および **130** を追加します。
8. **OK** をクリックしてから **tViolation** データ型の右側にあるチェックマークをクリックして変更を保存します。
9. **Save** をクリックして、DMN エディターを終了します。
10. **Violation Scenarios** テストシナリオを開きます。
Wrong column mappingエラーのポップアップが表示されます。

回避策:

1. 右上のテストシナリオデザイナーツールバーから、**Export** をクリックして **.CSV** ファイルをエクスポートします。
2. エラーの **プロパティ** コラムヘッダーをクリックします。
3. **Test Tools** パネルからもう一度、その **プロパティ** を選択します。
4. 値の削除のポップアップを確定します。
5. 最初にエクスポートした **.CSV** ファイルをインポートします。

ソースコードからパッケージの名前を変更しようとするファイルが保存できない [[RHPAM-3119](#)]

問題: ソースコードからパッケージ名を変更して、再読み込みが完了する前にエディターを終了すると、データオブジェクトが新規パッケージにすでに保存されている場合でも、**Unsaved changes** エラーが発生します。

問題の再現手順:

1. Business Central を開きます。
2. プロジェクトを開きます。
3. データオブジェクトを作成します。
4. データオブジェクトの **Source** タブで、パッケージ名を変更します。

5. **保存** をクリックします。
6. **Information** の警告ウィンドウで **+ Yes, Move** をクリックして変更を確定します。
Item successfully renamed の通知が表示されます。
7. エディターを終了します。
Unsaved changes エラーが表示されます。

回避策: なし

8.2. プロセスデザイナー

ケース定義にケース管理プロパティーがない [RHPAM-3131]

問題: **Properties** パネルのケース定義で、ケース管理プロパティーがありません。

問題の再現手順:

1. ケースプロジェクトを作成します。
2. ケース定義を作成します。
3. **Properties** パネルを開き、ケース管理プロパティーを追加します。

想定される結果: ケース管理のセクションが **Properties** パネルに表示されます。

実際の結果: ケース管理のセクションが **Properties** パネルに表示されません。

回避策: アドホックプロパティーを **true** に設定します。変更を反映するには、変更を保存して、ケースを閉じて、再度 **Properties** パネルを開きます。

8.3. インストーラー

Red Hat JBoss EAP 上の Red Hat Process Automation Manager インストーラーでは、データベースユーザーの保存パスワードに \$ 記号が追加される [RHPAM-3148]

問題: グラフィカルユーザーインターフェースを使用する場合にインストーラーが、KIE Server データソースの保存パスワードに \$ 記号を追加するので、データベースへの接続に失敗します。

問題の再現手順:

1. グラフィカルユーザーインターフェースを使用して Red Hat JBoss EAP に KIE Server をインストールします。
2. KIE Server のデータソースプロパティーを設定します。
3. インストールを完了してコンテナを実行します。
起動時のログイン認証情報が誤っているとのエラーがログに表示されます。

想定される結果: 保存パスワードに \$ 記号が追加されず、KIE Server がデータベースに接続されます。

実際の結果: 保存パスワードに \$ 記号が追加され、KIE Server がデータベースに正しく接続されません。

回避策:

1. Red Hat JBoss EAP ディレクトリーで **standalone-full.xml** ファイルを開きます。
2. データソースの定義で以下の要素を検索します。

```
<subsystem xmlns="urn:jboss:domain:datasources:5.0">
```

3. **<security>** 要素を検索します。

```
<password> ${VAULT::datasource.NAME::password::1}</password>
```

4. 保存パスワードの追加の \$ 記号を削除し、 **standalone-full.xml** ファイルのデータソース要素が以下のようにします。

```
<password> ${VAULT::datasource.NAME::password::1}</password>
```

Red Hat JBoss EAP に Red Hat Process Automation Manager を自動インストールすると、Red Hat Process Automation Manager インストーラーは Red Hat JBoss Web Server のプロパティーを設定しようとする [RHPAM-3150]

問題: Red Hat Process Automation Manager インストーラーは、Red Hat JBoss EAP に自動インストールすると、Red Hat JBoss Web Server のプロパティーを設定しようとしています。Red Hat JBoss EAP でインストールスクリプトを使用しているにも拘らず、自動化インストーラーは条件をチェックせず、Red Hat JBoss Web Server 関連の手順を実行します。

問題の再現手順:

1. デフォルトのオプションで Red Hat Process Automation Manager インストーラーを実行します。
2. Red Hat JBoss EAP をインストールコンテナとして使用します。
3. インストールを完了し、インストールスクリプトを生成して **auto.xml** という名前を指定します。
4. 使用した Red Hat JBoss EAP コンテナを消去して、生成したインストールスクリプトを使用してもう一度インストールを実行します。

```
java -jar rhpam-installer-7.8.x.jar auto.xml -variables
rhpam.username=rhbaUser,rhpam.password=bpmsAdmin123$
```

5. インストール済みの Red Hat Process Automation Manager を実行します。

想定される結果: Red Hat Process Automation Manager インストーラーは Red Hat JBoss Web Server 関連のプロパティーやインストールを Red Hat JBoss EAP に設定せずに、自動化スクリプトの使用に成功します。

実際の結果: Red Hat Process Automation Manager インストーラーは Red Hat JBoss Web Server 関連のプロパティーやインストールを Red Hat JBoss EAP に設定しようとし、自動化スクリプトの使用に失敗します。

回避策: 手動でインストールし、Red Hat JBoss EAP 向けに生成されたスクリプトを使用しないでください。

8.4. フォームモデラー

Windows でドキュメントのアップロード機能が動作しない [RHPAM-3117]

問題: Windows で **Document** フォームフィールドを使用すると、フォームやプロセスの一部として必要なドキュメントをアップロードできません。

問題の再現手順:

1. ドキュメントマーシャリング戦略を設定します。
2. ビジネスプロセスでドキュメント変数を作成します。
3. タスクの入力と出力をドキュメント変数にマッピングします。

想定される結果: Windows でドキュメントのアップロード機能が動作します。

実際の結果: Windows でドキュメントのアップロード機能が動作しません。

回避策: なし

8.5. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

S2I ビルドが Java 仮想マシン (JVM) プロパティを無視する [RHDM-1419]

問題: KJAR ファイルとその依存関係が Nexus にアップロードされることで HTTPS からアクセスでき、自己署名の証明書により署名されるため、S2I ビルドに失敗します。

回避策: なし

第9章 RED HAT PROCESS AUTOMATION MANAGER 7.8.1 で修正された問題

Red Hat Process Automation Manager 7.8.1 の安定性が増し、本セクションに挙げる問題が修正されました。

9.1. BUSINESS CENTRAL

- dashbuilder ランタイムディストリビューションに **dodeploy** ファイルがない [RHPAM-3031]
- dashbuilder 関連のデータをエクスポートすると、段階的なエクスポートで内部のデータソースが表示される [RHPAM-3021]
- テストする DMN モデルに PMML モデルが含まれる場合に DMN ベースのテストシナリオのパフォーマンスが低下する [RHDM-1415]
- シナリオシミュレーションで右側の **Test Tools** パネルにタイプではなくフィールドの名前が表示される [RHDM-1153]
- KIE Server は HTTP メディアタイプのパラメーターの区切り文字としてセミコロン代わりにコンマを使用する [RHPAM-3086]
- デプロイメントユニットを作成して GAV 値を手動で入力すると、「GAV not found in the Maven repository」というエラーメッセージが表示される [RHPAM-3046]
- BPMN ファイルを保存すると Git コミット履歴で SVG ファイルの無効なユーザー名が表示される [RHPAM-3007]
- ピリオド (.) の文字が含まれるユーザーに割り当てられたロールの設定を変更すると、Business Central にアクセスできない [RHPAM-2981]
- XLS スプレッドシート形式のデシジョンテーブルをガイド付きデシジョンテーブルに変換すると、例外エラーが発生する [RHPAM-2939]
- Business Central で **WorkItemHandler** アーキタイプをアップロードできない [RHPAM-2889]
- 同じ名前での別のプロジェクトを作成すると、プロジェクトで誤ったアセット数が表示される [RHDM-1413]
- ガイド付きデシジョンテーブルでキーボードでの移動に失敗する [RHDM-1394]
- ガイド付きルールテンプレートでは **Data** タブの **Date** フィールドで不正な日付が表示される [RHDM-1368]
- データオブジェクトのソースコードでパッケージを変更しようとするファイルを保存できない [RHDM-1336]

9.2. プロセスデザイナー

- **Properties** パネルからルールフローグループを選択すると、関連付けたプロジェクト名が表示されない [RHPAM-2910]

9.3. プロセスエンジン

- Red Hat Process Automation Manager 7.7.0 では、プロセスインスタンスにアクティブなタイマーが含まれており、Red Hat JBoss BPM Suite 6.4 リリースから移行される場合に、プロセスのアップグレードに失敗し、プロセスの移行が **NullPointerException** エラーで失敗する [RHPAM-3078]
- Red Hat Process Automation Manager 7.7.1 で Microsoft SQL Server 2016 を使用すると、無効な **process_inst_id** または **activity_id** コラム名に関連するエラーメッセージが表示される [RHPAM-2993]

9.4. デシジョンエンジン

- 実行可能モデルで誤って複数のバインディングのある accumulate が生成される [RHDM-1423]
- 制約でプロパティのバインド変数を使用すると、ルールが reactive クラスで評価される [RHDM-1387]

9.5. インストーラー

- Red Hat Process Automation Manager インストーラーに Red Hat JBoss Web Server 5.2 への参照が含まれる [RHPAM-3077]

9.6. オフライン MAVEN リポジトリ

- オフラインリポジトリを使用した Maven ビルドは、オフライン環境で失敗し、依存関係のエラーメッセージを表示する [RHDM-1283]

9.7. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

- Red Hat OpenShift Container Platform を使用して複数の KIE アプリケーションをデプロイすると Business Central リンクが重複して作成される [RHPAM-3055]

付録A バージョン情報

本書の最終更新日: 2020 年 9 月 8 日 (木)